

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

肥満症診療ガイドライン 2016

日本肥満学会 ガイドライン作成委員会（委員長：宮崎滋 結核予防会総合健診推進センター）
ライフサイエンス出版、2016年3月

■1 漢方薬（抑肝散、柴胡加竜骨牡蛎湯など）

疾患：

衝動的な食行動やうつ症状など

有効性に関する記載ないしその要約：

精神症状に使用する各治療薬の特徴の表中に、下記の記載がある。

『漢方薬：抑肝散、柴胡加竜骨牡蛎湯

利点：衝動的な食行動やうつ症状などのさまざまな精神症状に有用な場合がある。副作用や相互作用が最小限に抑えられる。

肥満治療に関する留意事項：食前3回内服、口あたりの悪さなどで敬遠される場合もある。各個人によって適応、効果発現に差がある。』